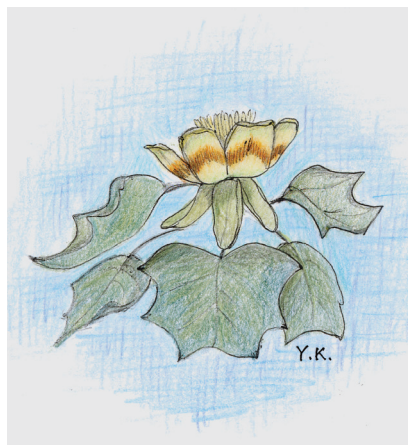


図書館だより

目次

プトレマイオス王朝の学術研究センター 「今、学生にすすめる本」特集（その17）	——新海 邦治	1
——高野由美子	篠原 聡子	2
秋元 健治	佐藤 和哉	
北村 暁夫	山本 鎮雄	3
木村真理子	高橋 泰子	
展示「19世紀イギリスの絵本 —本学所蔵コレクションより」	——百々佑利子	4
日本女子大学図書館友の会第39回・平成16年度総会開催される	——吉原三紀子	7
図書館でビデオを見よう		8
図書館事務室より	——上村美紗子	



プトレマイオス王朝の学術研究センター

新海 邦治

最近の新聞報道によれば、ドイツのポツダム大学調査団がナイルのデルタ地帯で第2のロゼッタストーンとも言うべき石碑を発見したとのことである。高さ99cm、幅84cmの碑には、紀元前238年に出されたプトレマイオス3世の勅令が、エジプト象形文字とギリシア文字で記してあるという。アレクサンドロス大王の後継者戦争を経てエジプトを獲得したプトレマイオス家が王朝の基礎を固め、首都アレクサンドレイアを地中海世界屈指の文化都市に作り上げたのが、丁度この3世時代の頃のことだった。アッタロス朝のペルガモンやセレウコス朝のアンティオキアなど、ギリシア化された諸都市は互いに政治・経済の繁栄を誇るだけでなく、文化的優越性を競い合ったのである。そのためにプトレマイオス1世が企てたのは、国際的な学術研究センターの設置だった。港に面する広大な王宮地区の一面に設けられたムーセイオンがそれである。ギリシアの芸術や哲学の守護神ムーサに因むこの施設は、地理学者ストラボンによると、遊歩道、談話室、食堂などを備えており、選任された会員たちの自由な利用に供されたい。そして近くには王家の誇る大図書館が併設された。代々の館長に任命されたのは、地球の周囲の距離を初めて測定したエラトステネス、ギリシア古典の膨大な註釈書を著したサモトラケのアリスタルコス等、時代を代表する碩学たちだった。

王家はまた、書物の収集にも力を注いだ。アレクサンドレイアに入港するすべての船舶は徹底的に検査され、発見された価値ある書物は強制的に買い上げられた。プトレマイオス3世の場合には、ギリシアの三大悲劇詩人の公式版を入手するために詐欺まがいの手を使ったという逸話もある。即ち彼は銀15タラントンという巨額の保証金を積んでアテナイの公文書館から目的の版を借り出し、それによって作成した見事な写本をアテナイ市に返還して、原本は手元に留めたという。こうして集められた数十万巻の書物はやがて大図書館の収蔵力を越え、3世は王宮地区から離れたエジプト人居住区のセラピス神を祀る神殿の内部に、新たに姉妹図書館を開設したのであった。

ムーセイオンと大図書館の設立をプトレマイオス1世に献策したのは、アテナイ出身でアリステレスの学園リュケイオンに学んだデメトリオスであったと伝えられる。またマケドニア貴族の出身であった1世も、かつてのアリステレスによる王子アレクサンドロスの教育の場に、年長の学友として、恐らく侍っていた筈であろう。ムーセイオンは、ギリシア学術の殿堂として知られたリュケイオンのエジプト版であった可能性も高いのである。

(図書館長・文化学科教授)

「今、学生にすすめる本」特集（その17）

■高野 由美子（児童学科助教授）

五十嵐敬喜、小川明雄著 『都市再生を問うー建築無制限時代の到来ー』 岩波新書 2003年

この2、3年、東京を中心に高層ビルの建設ラッシュが続いている。新しい高層ビルは未来都市を象徴する華やかな新名所として、マスコミにとり上げられることも多い。しかしながら、華々しいイメージのこうした都市の姿に一方で、「何でこんな所にまで建つのか。本当に必要なのか」との思いを抱かせられることも少なくない。この本の著者たちはさまざまな事例を引きながら、現代日本の都市の姿が必ずしも生活する市民の利益に沿ったものでない原因として、市民的な規制に基いた都市計画を欠き、産業界からの提言、要望に偏った都市政策があるとしている。そしてこの大都市優先、地方切り捨ての政策がミニバブルの崩壊や景観の破壊を招くという。個人の力では如何ともし難いと感じられる都市という巨大なものを変えたり、その望ましい姿に作り上げていくのも結局は個人の意識であることを重視している著者たちの姿勢が印象的な一冊である。

■篠原 聡子（住居学科助教授）

西川祐子著 『近代国家と家族モデル』 吉川弘文館 2000年

人生には何度か、「そうなんだよな！」と膝を打つような本に出会うことがある。この本は私にとってまさにそのような本である。私たちの生活を包む住居というのは、建築の領域ではもっとも私的な領域として位置付けられる。そしてそれは家族の器という言い方もされる。そこは一種の聖域のように扱われ、公的な空間と対置するシェルターのように考えられてきた。しかし、日頃、住宅や集合住宅の設計をしながら、そういう切り取り方に疑問を感じてきた。家族や住宅の話は、その器の中で考えられている限り、限界がある。この著作の一つの重要なエッセンスは「近代家族とは近代国家の基礎単位としての家族である。」という一節にある。ごく身近な日常的なことに向けられる視線の延長線上に制度や国家を見通す、繊細でタフな眼差しの力に共感するところは大きい。分野を超えて、是非手にとって欲しい一冊である。

■秋元 健治（家政経済学科講師）

ロジャー・ミラー他著 『経済学で現代社会を読む』 日本経済新聞社 2001年

本書は、経済理論の現実社会への応用を非常にわかりやすく解説している。4人の著者たちは、ノーベル経済学受賞のダグラス・ノースをはじめとする新鋭の経済学者である。今日の経済学は、数学や統計で精緻化し、現実の実感をともすれば失いがちであるが、本書は生活実感のある経済学の啓蒙書、入門書として優れている。原題は "The economics of public issues"（公共的争点の経済学）で、公共的争点とは、「国民一般の利害関係があり公共政策が取り組むべき課題」である。現代の経済社会が直面する公共的課題を取り上げ、経済学がどう分析し、かつ可能な解決案を見出す上でどう役立つかを提示している。具体的には「新薬認可」「犯罪防止」「家賃規制」「高齢化」など興味深いテーマを、経済学の視点、つまり人間がある社会的環境下で自由に合理的選択をしたなら、どのような結果となるか。またその展開過程を応用することでいかなる政策実現が可能かを明らかにしている。

■佐藤 和哉（英文学科助教授）

行方昭夫著 『英文快読術』 岩波書店 2003年

この本の著者は、こと英語の文章をじっくり読み解く、という点においては、推薦者の知るなかで確実に3本の指に入る英語の達人である。「通じればいいんでしょ」的な英語への接しかたでは見えて来ない、英文の本当の面白さが分かるようになるための手段を、本書は微に入り細を穿って説明してくれる。「いきなりそんなレベルなんて…」と尻込みすることはない。例えば、英文科の基礎英語で課している「易しい英語の多読」といった基本的な練習も、ちゃんと本書で説かれている。また、前後の整合性を大切にしながら難解な英語の文章を読むことが論理的な頭脳を鍛えるために有効だ、という著者の意見には、英語が不得意な人であっても耳を傾けるべきであろう。ただし、推薦者の英語の授業を受けている学生諸君は、授業で話している「英文読解のコツ」の出所の多くが本書であることに気がついて、知らないふりをしておくのが大人というものなのだよ。

■北村 暁夫 (史学科助教授)

韓洪九著 『韓洪九(ハンホング)の韓国現代史：韓国とはどういう国か』 平凡社 2003年

2002年W杯に続き「冬ソナ」や「ヨン様」の人気の影響で、韓国はひととき身近なものに感じられるようになりました。けれども、20世紀の韓国(朝鮮半島)の歴史となると私たちの知識は心もとない限りです。本書は、興味深いエピソードを語ることによって、私たちの目を韓国現代史に啓かせてくれます。ごく一例を挙げれば、満州国が朝鮮半島の人々にとっても一旗揚げのチャンスを提供し、戦後に朴正熙元大統領をはじめとする満州閥を生み出したこと、朝鮮戦争時にマッカーサーが救国の英雄として崇められ、今でも仁川の公園に彼の銅像が立っていること、など。単一民族神話のもとに外国人労働者を差別する韓国社会の姿勢を戒め、様々な矛盾の責めをすべて「日帝支配」に帰す態度を糾す著者の思考は、強靱でバランスがとれています。日韓の間に今なお横たわる歴史認識の深い溝を埋めるために、私たちもこうした思考のあり方に学ぶ必要があると感じるのです。

■山本 眞雄 (現代社会学科教授)

河村 望著 『知られざる社会学者 成瀬仁蔵』 人間の科学社 2002年

昨年、本書の著者から年賀状を頂戴した。そこには「学兄の成瀬と社会学の論文、本を書いた後で知りました。本で言及しなかったのは、不勉強のため知らなかったからです」という素っ気ない一文が添えられていた。ここで「本」というのは、上記の推薦書である。たしかに私は『日本女子大学紀要 文学部』39号に「成瀬仁蔵の社会学的世界」という論文を書いたことがある。私もまた「不勉強」のため、年賀状を頂戴するまで本書の出版を知らなかった。本書で本学に何かと縁の深い著者だと知ったが、プラグマティズムのジョン・デューイと親交があり、その影響を受けた本学創設者の成瀬仁蔵を初めて社会学者として再評価した。そのため、本書には証言者として本学の家政学部教授の高良とみ、婦人運動の先駆者の平塚らいてうなどの多くの卒業生を登場させている。本書はかなり^あくが強く、^て手強い。私は本書には大いに異論があるが、本学の建学者の精神を理解する一助として、とまれ学生諸君に一読をすすめることにした。

■木村 真理子 (社会福祉学科教授)

John McKnight. *The Careless Society : Community and its Counterfeits.* New York Basic Books c1995

ジョン・マックナイトの肩書きは「語り部、政治哲学者、預言者、コミュニティアクティヴィスト」、そしてノースウェスタン大学教授、都市政策研究センター所長でもある。カナダの精神保健の会議で講演を聞き、他の会議でも彼の著書を紹介されて関心をもった。語り口は温和だが、現代社会に対する批判は、自らの中にある力にひとりひとりが目をむけること、近くにいる人々がおたがいを癒す力をもっていることに気づくことがコミュニティを再生させることになることと実話をを用いて語る。マックナイトはまた、社会が専門職と呼ばれる人々によって先導され、個人やコミュニティが自らの力を発見することを忘れてしまいそうになっていると、今のアメリカ社会に警鐘を鳴らす預言者の役割を担っていてもいる。本書は専門書ではなく、一般向けの読み物として書かれ、文体は流麗で読みやすく、また批判のスピリットに満ち溢れている。

■高橋 泰子 (物質生物科学科教授)

大塚和夫著 『イスラーム主義とは何か』 岩波新書 2004年

養老孟司さんの「バカの壁」に“イスラーム原理主義者と米国はなぜ互いに話が通じないのか。そこに「バカの壁」が立ちちはだかっているからだ”と書かれている。9・11事件以来、注目を集めるイスラーム原理主義の運動やイスラーム世界の動きの深層を知ることはすでにイラクに自衛隊を派遣している日本・あるいはわれわれ日本人にとっても「興味がない」「分からない」では済まされない「バカの壁」を破る一歩ではないだろうか。イスラーム主義者とは19世紀後半から開始された西洋主導の「近代化」の流れを十分に意識し、それからの影響をさまざまな形で被りながら、それでもあえてイスラームを自らの「政治的」イデオロギーとして選択し、それに基づく改革運動を行なおうとする人々のことをさす。イスラームの信者は世界に13億人ほどいるといわれる。新聞、テレビ等では知りえなかったイスラームの基礎知識・歴史の流れをこの本は教えてくれる。

展示「19世紀イギリスの絵本 一本学所蔵コレクションより」

百々 佑利子

図書館玄関ホールにおいて、2004年6月7日（月）より7月24日（土）まで、展示「19世紀イギリスの絵本 一本学所蔵コレクションより」を行っています。

日本女子大学が所蔵している稀覯書は、成瀬仁蔵先生の蔵書も含めて、膨大な数になるでしょう。今回は20点ほどですが、おもにイギリスの19世紀の絵本を本学児童学科所蔵コレクションから見ていただきます。

展示ブースでは、まず『コックロビンの死と埋葬』（1797）からご覧下さい。ねずみ色の紙片の表と裏に「コックロビンを殺したのはだあれ？」という有名な英国伝承童謡の歌詞が印刷されています。これを切って綴じれば、小さな小さな本ができるわけですが、このような本はチャップブックと呼ばれています。『行商人ジョン・チープの生涯』の扉絵にあるようないでたちの行商人が小間物といっしょに売り歩いた廉価な本です。チャップブックの内容は最初のうちは大人向けで、文字だけのものもありました。『ワトソン印行チャップブック・コレクション』に収められている話は、家庭の成員みなに、信仰の道からはずれることなく道徳的に生きるよう説くチャップブックの典型的な例です。

『コックロビン』の特徴は、どの頁にも木版の挿絵があることでしょうか。このようなチャップブックが、子ども向けの絵本のさきがけとなりました。子どもの読者を意識して制作されたチャップブックには『よい男の子のおはなし』のような子どもの教化を目的にしたもののほかに、『子ども向け詩華集』や『お話の本』など詩や物語の本、『国々の本』や『家の動物』などの知識の本がありました。実物が示しているように、どれもサイズは小さく挿絵の線や形は素朴です。けれども本が一冊もない家庭の子どもたちにとって、絵入りのこれらの本は胸がふるえるほどの感動と驚異を与えたのではないのでしょうか。そして製作者の側は、もっとすばらしい本を作りたいという思いを募らせたにちがいありません。当時の芸術家や出版人の心情と理想を想像しながら、クルックシャンクやクレインの絵本をご覧下さい。彼らの豪華な絵本からは、大人も子どもも人々が本というメディアにおいて容易に分ち合うことのできるテキストが伝承文学であったことも、おわかりいただけるでしょう。

絵本はわずかな年数のうちに変貌をとげ、19世紀末には、現代の洗練された絵本の域に達しました。技術の発達や紙の生産の向上等の要因がかかわっているのはむろんですが、文学と美術が結合し、絵と文の相互補完性や釣り合いに留意して制作された絵本が人間の内によびおこす大きくて深い歓喜といったものが、短時間のうちに理解され浸透したからであろうと思います。さらに、可能性を追求することをやめない性をもつ人間は、平面的で有限な本という空間に立体的な世界を実現

させようとすりました。その結晶が「しかけ絵本」です。「かけがえのない子ども時代という認識の芽生え」の後押しも受けて、19世紀は、子ども文化を大いに発展させましたが、これらの多彩な絵本を創造した大人もまた、興奮や喜びを共有したことでしょう。数は多くありませんが、「本という遊び」の真髄を体験できるこの展示をたのしんでいただければ幸いです。（児童学科教授）



展示用ポスター

<展示図書一覧・解説>

※ca.=circa (およそ … 年頃)

(1) 『コックロビンの死と埋葬』

今から200年以上前のチャップブック (小さくて廉価な大衆本)。製本されていない。

テキストは、ナーサリーライム (マザーグース) のなかでも最もよく知られている「コックロビンを殺したのはだあれ?」

15図の木版の挿絵がある。日本女子大学の蔵書になる前は、モリス・センダックの旧蔵書であった。

製作: M.モーガンと A.モーガン, リッチフィールド

DEATH AND BURIAL OF COCK ROBIN M. Morgan and A. Morgan 1797

(2) 『ワトソン印行チャップブック・コレクション』 2巻, 3巻

冊子にまとめられた貴重なチャップブック本。宗教, 道徳が主たるテーマであり, 敬虔なクリスチャンと拝金主義者を対比させて, 人生の実りの違いを物語で綴る。1話が数ヶ月に亘って展開された, 啓蒙的な続き読み物。

「二人の裕福な農場主, ミスター・ブラグウェルの生涯」「二人の靴職人」「二人の兵隊さん」他。

COLLECTION OF 46 CHAPBOOKS Ann and William Watson, Dublin ca.1800-1820

(3) 『行商人ジョン・チープの生涯』

チャップブックを売る呼び売り商人 (チャップマン) ジョン・チープは怠け者, その珍道中を語る。

題扉に主人公の木版画がある。「チャップブック」の名称はこうしたチャップマンによって売り歩かれたことによる。

ENTERTAINING HISTORY OF JOHN CHEAP THE CHAPMAN Glasgow 1830

(4) 『よい男の子のおはなし』

模範的な男の子ジョージ・ジョーンズの話。

COBB'S TOYS — LITTLE STORIES ABOUT THE GOOD BOY

Hickok and Stark Lewistown PA. 1835 Price one cent.

(5) 『ゆかいな眺め』

4枚の彩色された木版画を含めて, 8枚の図版入り。手彩色の色がかなり大幅にはみ出している。

老夫婦, 牛に川を渡らせる牧童など, 当時の世相をしのばせる絵と説明がある。

ENTERTAINING VIEWS (Printer for the booksellers) 1840

(6) 『子ども向け詞華集』

"We are Seven", "I Remember, I Remember" などの名詩を挿絵入りで収録。

表紙及び本文の彩色は, 昔の持ち主の子どもバーバラによるもの。

THE CHILD'S WREATH OF POETRY: OR AMUSEMENT FOR INFANT MINDS.

New York Kiggins & Kellogg. Publisher 1847

(7) 『国々の本』

スペイン人, インディアン, 南米人, トルコ人, ロシア人, インド人についてそれぞれ図版入りで短く紹介。

BOOK OF NATIONS, FOR CHILDREN Pittsfield, Mass. E. Werden. 1848

(8) 『家の動物』

馬, 犬, 猫, 豚, らくだについて絵入りで解説。

DOMESTIC ANIMALS: A STORY BOOK FOR CHILDREN. Pittsfield, Mass. E. Werden. 1848

(9) 『お話の本』

対話形式の散文で書かれた小話集。

THE CHILD'S STORY-BOOK New York Kiggins & Kellogg 1855

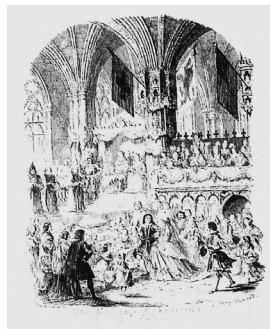
(10) 『お伽の国文庫: 別刷り銅板挿絵集』

ジョージ・クルックシャンク。「一寸法師」「ジャックと豆の木」「シンデレラ」「長靴をはいた猫」

THE FAIRY LIBRARY George Cruikshank David Bogue/George Routledge 1853-64

Hop-o'-my-Thumb & the Seven-League Boots, 1853 Jack and the Beanstalk, 1854

Cinderella and the Glass Slipper, 1854 Puss in Boots, 1864



(10) 『お伽の国文庫』より
シンデレラと王子の結婚

(11) 『茶色の猿の滑稽な話』

利口な猿についての韻文小話。表紙は彩色されている。

COMICAL HISTORY OF THE BROWN MONKEY London T. Goode, Publisher, Clerkenwell Green 1865

(12) 『美しい星の姫』

ウォルター・クレインの「シリング」シリーズの79冊目。テキストは、誘拐されて育った美しい姫の数奇な運命と勝利を語る伝承物語。

PRINCESS BELL ETOILE Walter Crane G. Routledge and Sons ca.1874

(13) 『ジャックと豆の木』

ウォルター・クレインの「6ペンス」トイブック。テキストは昔話。クレインの「本の装飾家」としての拘りがみられる。

JACK AND THE BEANSTALK

Walter Crane Routledge's New Sixpenny Toy Books G. Routledge and Sons ca.1874

(14) 『3びきのくま』

ウォルター・クレインの昔話をテキストとした絵本。

THE THREE BEARS Walter Crane G. Routledge and Sons ca.1874

(15) 『ハバードおばさん』

ウォルター・クレインの昔話絵本集。「ハバードおばさん」「3びきのクマ」「ゆかいなABC」

OLD MOTHER HUBBARD PICTURE BOOK

Walter Crane G. Routledge and Sons ca.1874

(16) 『幼子のオペラ』

ウォルター・クレインが挿し絵をつけた、楽譜のある伝承童謡集。

THE BABY'S OPERA

Walter Crane Frederick Warne and Co. 1877

(17) 『幼子の花束』

ウォルター・クレインによる挿し絵つきの、楽譜のある伝承童謡集。

THE BABY'S BOUQUET Walter Crane

G. Routledge and Sons 1879

(18) 『びっくりABC』

タブを引っ張ると、別の絵があらわれるしかけ絵本。

目の前にある絵が入れ替わるという、新しいコンセプトを盛り込んだ絵本。ニスターは、しかけ絵本の名作を残している。

THE ABC SURPRISE BOOK

E. Stuart Hardy (illust.), Clifton Bingham, Ernest Nister ca.1891-1900

(19) 『ニスターのパノラマ絵本』

当時の子どもたちの遊びの世界を、ポップアップ絵本にしたニスターの名作。

NISTER'S PANORAMA PICTURES Ernest Nister ca.1891-1900

(20) 『コミック・アクターズ』

ダンスの教師、歌手、仕立屋、写真屋など仕事をする人々を愉快に動かすことができる精密な仕掛け絵本。製作者のメッゲンドルファは、ニスターとともに、ドイツ生まれの、しかけ絵本の先駆者である。

COMIC ACTORS Lothar Meggendorfer H. Grevel & Co. 1891

(21) 『さかさま絵本』

ピーター・シーフ・ニューエルはアメリカの絵本作家。20世紀初頭に、ゆかいなさかさま絵本をつくった。ドイツのしかけ絵本はイギリスで英訳/同時出版されたし、アメリカのしかけ絵本もイギリスで手にとることができた。

TOPSYS AND TURVYS—2 P. S. Newell The Century Co. 1894



(19) 『ニスターのパノラマ絵本』より
ねこさん一家のお食事

日本女子大学図書館友の会第39回・平成16年度総会開催される

図書館友の会、ご存知ですか？目白図書館の前にある掲示板や西生田図書館内の掲示板の一角に、英文読書会などの教養あふれる講座や、京都など各地を訪ねる日帰り研修会のお知らせを見た方もいらっしゃるでしょうか？ また、日本女子大学ホームページ冒頭の講演会・公開講座のお知らせ、でその名前を知った方も多くいらっしゃると思います。

正式名称は「日本女子大学図書館友の会」で、元学長上代タノ先生じょうだいによって現目白図書館設立1964年の翌年、1965年に創設されました。図書館資料購入の補助をはじめ、上代タノ平和文庫の運営、卒業生の著作目録作成、前記のように講座や研修会の開催などの図書館を支える活動を続けています。会員は日本女子大学全学園の教職員、旧職員、卒業生、在学生および卒業生の父母、および友の会会員の紹介を受けた方で構成されています。会費が必要ですが、図書館利用が貸出も含めて可能、という特典は大きいと思われます。上代先生が学長になられる前、アメリカのスミス・カレッジなどで体験した図書館友の会の存在は、さまざまな職場の人を会員とすることによって、地域社会の気持ちを図書館に対して代表し、図書館後援運動の推進者となっていました。39年も前にこのような図書館友の会を持った日本の大学図書館はほかになく、大学図書館の支援および地域開放の先駆けとして画期的な存在です。

その総会が5月19日（水）午後1時より、目白キャンパス百年館504会議室で行われました。友の会会長である後藤祥子学長の挨拶から始まり、議事は滞りなく進み、会計を30余年にわたり担当された玉木照子氏がこの総会をもって退任されるお知らせと玉木氏からの挨拶がありました。事業報告をいくつかピックアップします。まず、図書館資料の購入の補助は目白図書館と西生田図書館に隔年で行われています。次に上代タノ平和文庫について、設立者上代タノ先生の「奨学金ではわずかな学生にしか与えられない、図書ならば多数の学生の手にとってもらえる」お気持ちによる設立であったことを初めて聞きました。（平和活動に積極的であった上代タノ先生は、現在の目白図書館（5階）内にご自分の寄贈図書を中心とした平和関係の資料を揃えた上代タノ平和文庫を設立されました。現在もそのご遺志を継いで図書館友の会により、継続収集されています。ご活用ください。）また、卒業生の著作目録は一人で作成している、との話がありました。「以前は『出版ニュース』、『出版年鑑』といった出版目録から卒業生と思われる名前を見当をつけて探し、調査していた。昨年より『現代日本女性人名録／日外アソシエーツ編（新訂）2001年』（図書館にもあり。請求記号R/281.09/Gen）に卒業大学名が掲載されるのでそれを基に、インターネットで検索をしている、その結果、広く調べることが出来、通信教育課程の卒業生が目立つ」と報告されました。大変地道な作業を長く続けていらっしゃることに改めて感銘を受けます。この『日本女子大学卒業生著作目録』は、図書館参考図書コーナー（請求記号Bib/027.33/Nih）にあります。

議事終了後、飯島澄子氏（新制4回教育学科卒）による「スクールカウンセラーとは」の講演があり、



事業計画説明 飯塚常任理事

現役カウンセラーならではの熱い語り口で子どもの現状を話され、フロアは緊張を持って聞き入りました。総会について詳しくは『日本女子大学図書館友の会会報』に掲載されます。図書館の雑誌コーナーにもあります（請求記号P/017.7/N/2）。

さて、友の会に興味を持ったあなた、入会パンフレットは図書館のカウンターにてお尋ねください。また、友の会の事務所は目白図書館の5階にあります（月～金10時から4時）。まずはお電話をどうぞ。<03-5981-3183あるいは03-3941-8865>（館員・洋書係 吉原三紀子）

図書館でビデオを見よう

図書館では、ビデオを見ることができます。図書館所蔵のビデオ資料のほかに、ご自分のビデオテープを持ち込んで見ることもできます。授業の合間などにも、どうぞご利用ください。



目白図書館5階 ビデオコーナー



西生田図書館1階 AVコーナー

図書館事務室より 梅雨空の日のお昼どき、西生田キャンパス生協食堂での席近く、「目白は、何とか記念、記念って、とにかく記念だらけの建物ばかり多くて…知ってる？なにしろすまがないんだよ。西生田は、いいよね、…」(広々と何もな^{そぼだ}いけど、緑がたくさんでさあ、…)思わず肯きそうになるゆしげな学生のお喋りに、つい耳を時^{そぼだ}たせた後半は、その大声にもかぶる騒音にかき消された。◆目白の図書館棟は、(小声でいうが、)実はその記念のひとつ。建設後、40年になる。本学60周年記念の賜物である。学生さんの言いぶんは、目白、西生田を言い得て妙、含蓄もある。人間でいえば、40歳は、「もはや若いとも言えず、老いこむ年でもない微妙な年齢。心身ともに変化も兆す」と物の本にある。いちいち図書館におきかえれば些^{いささ}か深刻で、中身の万全のみならず、うつわへの相当の配慮が大事ということになる。◆その目白では、大規模な改修計画の発端から7年の歳月をかけて、学内関係者、関連業者そして館員の協力態勢のもとに、閲覧部門の空間を拡げ、施設、設備を拡充整備する作業に専念した。お力添えをいただいた皆様には心よりお礼申し上げる。振り返れば、学生のみなさんに図書館を利用してほしい、本を読んでほしい、勉強してほしい、楽しんでほしいの一心からであった。◆創設40年後の平成16年6月23日現在、文学部併設当時の4階、5階、6階の様相は一変している。新たな運用による図書館利用サービスが始められており、4階、5階の閲覧席、書架の間には、夜間遅くまで、ごく自然に本に向かう落ち着いた利用者の姿が多く見られる。◆平成15年度、図書館、学部、大学院、通信、研究所、センター等全学で購入した図書資料費は、約2億7千万円であり、年間増加冊数は、約19,000冊。全蔵書冊数は、709,673冊(目白:555,146冊、西生田:154,527冊)、雑誌は、15,132種類である。一方、入館者は、年間延べ約20万人(目白:132,224人、西生田:64,179人)で、1日平均目白523人、西生田266人、試験期は、各651人、352人の利用がみられた。◆平成16年度図書委員会委員は、本間健(食物)秋元健治(家政経済)源 五郎(日文)ダニエル・ガリモア(英文)渡邊恵子(教育)平木典子(心理)今井 元(数物科)永田三郎(物質生物科)の諸先生方で、本学図書館の運営諸事万端に目配りをしてくださる。◆目白の5階の窓外にみるゆりの木の花の、えもいえぬ風情を冒頭の学生さんに伝えたいものである。6月を過ぎると、この花は幻のように視界からきえる。(上村)



目白のゆりの木の花

編集後記 図書館玄関ホールでは、児童学科百々佑利子先生企画の展示「19世紀イギリスの絵本 一本書所蔵コレクションより」を、7月24日まで行っています。稀観書を展示していますので、ご覧ください。巻頭のカットは、目白図書館で勤務の小林寧子さんが、ちょうどゆりの木の花を描いてくださいました。(山口)